



グローバル教育の記録 2024

令和6年度



2024年 帰国生クリスマスパーティーの様子

神奈川県立鶴嶺高等学校

〒253-0084 茅ヶ崎市円蔵1-16-1

電話 0467-52-6601 (代)

FAX 0467-54-2124

ホームページ <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/tsurumine-h/>

目 次

I	巻頭に際して	1
II	グローバル教育に関する沿革	2
III	グローバル教育に関する取組	
	A. フランス人大学生との交流	4
	B. 中国人留学生（大学院生）との交流	7
	C. World Sports Festival 2024	10
	D. The Speech Contest 2024	11
	E. Traditional YUKATA-Dancing	14
	F. International Lunch Time	15
	G. Ride the Wave; Win the Gold!	16
	H. Feel the Heat; Hit the Beach!	17
	I. Dansk Kultur: HYGGE	18
	J. イギリスの学校との交流	19
	K. ドイツの学校との交流	24
	L. ブリティッシュヒルズでの研修	31
IV	令和6年度グローバル教育に関するアンケート結果	33

I . 卷頭に際して

Dear Future Global Citizens

Hello, students! 2024 was another great year for Tsurumine High School, with students and teachers working together to make everyday classes, school events, and club activities successful. Through these activities, Tsurumine wants you to grow into good global citizens who work for a better world. Now, let's take some activities that represent Tsurumine's education, and think about how they prepare you for thriving on global stages.

English Education

Learning English opens doors to the world. English classes are not just about learning the language; you can learn about the different cultural backgrounds of English-speaking people. For example, instead of saying “Yoroshiku Onegai Shimasu,” English speakers might say, “Can you do that? Great, thank you!” You will notice these differences especially when speaking English. That's why Tsurumine focuses on speaking activities such as the English Speech Contest. English is a necessary tool for communicating with people around the world. I hope you will try to improve your speaking skills at Tsurumine.

School Events

While learning about different cultures is important, understanding our own culture is equally important. *The Yukata Dance* at the Sports Festival gives you the chance to wear a traditional Japanese summer dress, the yukata. Not only do you wear it, you also learn how to Bon-dance. *The Yukata Dance* has been handed down from Senpai to Kohai since Tsurumine was founded in 1975. Every student who graduates from Tsurumine is prepared to introduce the yukata and Bon-dance to people from other cultures.

While *the Yukata Dance* is an “old” school event, there is a “new” one: The World Sports Festival. This is a fun day where students can participate in sports events from around the world. Students from Tsurumine International Committee proposed the idea and put it into practice in 2022. It is hoped that this event will become our next tradition.

Communication with Students

At Tsurumine, there are students from abroad, students who have visited foreign countries, and students who have never been abroad. I want you to understand that it is good to communicate with other students. Face-to-face communication broadens your horizons and enriches your perspectives, often on a global scale.

You are future global citizens. Make the most of your time at Tsurumine, and strive to become a person who contributes to building a better society for future generations.

TAKAHASHI, Masahiro
Principal of Kanagawa Prefectural
Tsurumine High School

II. グローバル教育に関する沿革

1975年 (昭和 50年)	開校
1977年 (昭和 52年)	文部省帰国子女教育研究協力校に指定される
1984年 (昭和 59年)	県海外帰国生徒特別募集校に指定される
1988年 (昭和 63年)	県外国人留学生受け入れ推進校に指定される
1991年 (平成 3年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校訪問実施 教員 2名、生徒 3名 姉妹校提携
1992年 (平成 4年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校来校 (1週間) 教員 2名、生徒 4名
1993年 (平成 5年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校訪問実施 (11日間)
1994年 (平成 6年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校来校 (2週間)
1998年 (平成 10年)	3月 米メリーランド州 J.F ケネディー高校訪問実施 教員 1名、生徒 5名 姉妹校提携
2000年 (平成 12年)	7月 フランス人大学生来校 (1日) 7名 11月 中国の高校の日本語教師 2名来校し一日体験
2001年 (平成 13年)	7月 フランス人大学生来校 (1日)
2002年 (平成 14年)	7月 韓国ソウル大学校師範大学附設高等学校来校 (教員 3名、生徒 40名) 7月 フランス人大学生来校 8名 10月 韓国修学旅行実施 (27期生)
2003年 (平成 15年)	7月 フランス人大学生来校 (1日) 10名
2004年 (平成 16年)	7月 県国際・英語教育活動実践推進拠点校に指定される 7月 フランス大学生来校 (1日) 11名 7月 英国チャタムグラマースクール来校 (3日間) 教員 2名、生徒 19名
2005年 (平成 17年)	7月 フランス大学生来校 (1日) 9名 10月 英国チャタムグラマースクール来校 (3日間) 教員 3名 生徒 27名 11月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施 (30期生)
2006年 (平成 18年)	7月 フランス大学生来校 (1日) 7名 10月 英国チャタムグラマースクール来校 (3日間) 教員 2名、生徒 12名 10月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施 (31期生) 11月 県派遣生徒として韓国、中国、アメリカ(メリーランド州)へそれぞれ 1名ずつ生徒派遣
2007年 (平成 19年)	7月 第一回英國交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 20名 県学力向上推進国際・英語教育拠点校に指定される 7月 フランス大学生来校 (1日) 11名 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (3日間) 教員 2名、生徒 10名 10月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施 (32期生)
2008年 (平成 20年)	7月 県派遣事業として、マレーシアのペナン州へ 3名の生徒派遣 7月 第二回英國交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 16名 7月 フランス大学生来校 (1日) 9名 10月 マレーシア修学旅行実施 (33期生) 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (3日間) 教員 3名 生徒 16名 12月 県派遣事業として中国へ 1名の生徒派遣
2009年 (平成 21年)	3月 第三回英國交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 16名 7月 フランス大学生来校 (1日) 6名
2010年 (平成 22年)	10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (3日間) 教員 2名 生徒 8名 3月 第四回英國交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 県教育力向上推進事業における教育推進校(国際教育)に指定される 7月 ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)来校 (5日間) 教員 2名 生徒 8名 フランス大学生来校 (1日) 8名
2011年 (平成 23年)	10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 教員 2名 生徒 14名 3月 第五回英國交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 7月 フランス大学生来校 (1日) 4名 9月 第一回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員 2名 生徒 20名 第一回ニュージーランド交流校(ラザフォードハイスクール)訪問 教員 2名 生徒 18名
2012年 (平成 24年)	12月 AFS 東アジア青少年大交流計画プログラム生受け入れ 教員 1名 生徒 11名 3月 第六回英國交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 7月 フランス大学生来校 (1日) 6名 8月 第二回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員 2名 生徒 19名 第二回ニュージーランド交流校(ファンガパラオア・カレッジ)訪問実施 教員 2名 生徒 20名
2013年 (平成 25年)	10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (1日) 教員 2名 生徒 8名 第七回英國交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 7月 フランス大学生来校 (1日) 6名 8月 第三回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 第三回ニュージーランド交流校(ファンガパラオア・カレッジ)訪問 教員 2名 生徒 24名 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (1日) 教員 3名 生徒 25名

2014年（平成26年）	3月	第八回英國交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施	教員2名	生徒12名
	7月	フランス大学生来校（1日） 5名 ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)来校（5日間） 教員2名 生徒8名		
	8月	第四回ニュージーランド交流校(オネハンガ・ハイスクール)訪問実施 教員2名 生徒20名		
	9月	第四回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員2名 生徒12名		
	10月	英國交流校(チャタムグラマースクール)来校（1日） 教員2名 生徒8名		
2015年（平成27年）	3月	第九回英國交流校(オーケアカデミー)訪問実施 教員2名 生徒20名		
	7月	フランス大学生来校（1日） 9名 第五回ニュージーランド交流校(メルヴィル・ハイスクール)訪問実施 教員2名 生徒20名		
	8月	第五回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問 教員2名 生徒12名		
	11月	オーストラリア大学生来校（1日） 8名		
2016年（平成28年）	3月	第十回英國交流校(ワインチカムスクール)訪問実施 教員2名 生徒20名		
	7月	フランス大学生来校（1日） 10名 第六回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員2名 生徒12名		
	11月	オーストラリア大学生来校（1日） 8名		
2017年（平成29年）	3月	第十一回英國交流校(ワインチカム・スクール)訪問実施 教員2名 生徒20名		
	7月	フランス大学生来校（1日） 8名 第七回ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)訪問実施 教員2名 生徒12名		
	8月	9月 英國交流校(ワインチカム・スクール)来校（5日） 教員3名 生徒19名		
	11月	オーストラリア大学生来校（1日） 8名		
2018年（平成30年）	3月	第十二回英國交流校(ワインチカム・スクール)訪問実施 教員2名 生徒12名		
	7月	フランス大学生来校（1日） 7名 第六回ニュージーランド交流校(アルフレiston・カレッジ)訪問実施 教員2名 生徒20名		
	9月	ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)来校（5日） 教員2名 生徒11名		
	3月	第十三回英國交流校(ワインチカム・スクール)訪問実施 教員2名 生徒20名		
	7月	フランス大学生来校（1日） 3名 第八回ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)訪問実施 教員2名 生徒12名		
	8月	9月 ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)来校（8日） 教員2名 生徒12名		
2019年（令和元年）	3月	英國交流校訪問 中止		
	7月	フランス大学生来校 中止		
	8月	ドイツ交流校訪問 中止		
	9月	ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)オンライン交流		
	12月	海外勤務の卒業生によるオンライン授業		
	12月	Tsurumine Speech Contest		
2021年（令和3年）	3月	英國交流校訪問 中止		
	7月	フランス大学生来校 中止		
	8月	ニュージーランド交流校訪問 中止		
	12月	海外勤務の卒業生によるオンライン授業		
	12月	Tsurumine Speech Contest		
2022年（令和4年）	3月	英國交流校訪問 中止		
	3月	ワールドスポーツフェスティバル		
	7月	フランス大学生来校 中止		
	8月	ドイツ交流校 中止		
	12月	ドイツ交流校とオンライン交流会		
	12月	Tsurumine Speech Contest		
2023年（令和5年）	2月	ドイツ交流校とオンライン交流会		
	3月	英國交流校訪問 中止		
	3月	ワールドスポーツフェスティバル		
	7月	フランス大学生来校		
	8月	ニュージーランド交流校訪問(ラザフォード・カレッジ) 訪問実施 教員2名 生徒20名		
	9月	ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)来校 教員2名 生徒12名		
	11月	ドイツ交流校とオンライン交流会		
	12月	Tsurumine Speech Contest (1年)		
2024年（令和6年）	1月	Tsurumine Speech Contest (2年)		
	3月	英國交流校訪問		
	3月	ワールドスポーツフェスティバル		
	1月	Tsurumine Speech Contest (1年) (2年)		
	3月	英國交流校訪問		
	3月	ワールドスポーツフェスティバル		
2025年（令和7年）				

III. グローバル教育に関する取組

A. フランス大学生との交流

7月11日（木）に、茅ヶ崎市国際交流協会のご紹介で、フランスの大学生7名が来校し、生徒たちと交流しました。毎年実施されているこのイベントですが、今年はプログラムを少し変更するなどして、より多くの生徒がフランスの方々と触れ合う時間を増やすよう工夫しました。



1時間目は、国際交流委員による鶴高紹介プレゼン・校内ツアーを行いました。生徒たちは1か月前からプレゼン内容を検討して英語原稿やスライドを作成して準備してきました。当日は緊張していましたが、学生たちからのリアクションがあるとリラックスしてプレゼンを終えることができました。また、校内ツアーでは最初に“**bonjour**”と挨拶をして鶴嶺高校を1周しました。校内ツアーの間、自分から英語で話しかける生徒もあり、普段はなかなか英語を使用して他国の方と話す機会がない分、この機会を大いに楽しんでいる様子でした。



2時間目は、2年生の体育のドッジボールで汗を流しました。言語だけでなくスポーツも1つのコミュニケーションツールです。様々なツールを使い分け、コミュニケーションスキルを磨いていってほしいと思います。

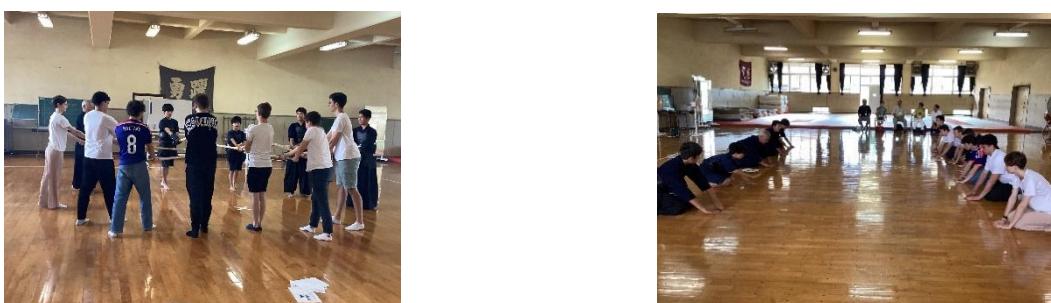
3時間目は、体育館で歓送迎会を行いました。本校校長より英語で挨拶があり、その後吹奏楽部の「ジャンボリミッキー」の演奏、ダンス部・チアリーディング部による発表をしました。フランスには部活動がないため、こんな多才な生徒がいるとはと驚かれていました。最後に学生からはパリオリンピックが開催されるため、国歌を歌っていただきました。



4時間目は、1年生の各クラスの授業に入って様々な科目を体験していただきました。まずは各クラスの国際交流委員が、学生の名前を書いたウェルカムボードをもって迎えに行きました。授業中は学生が数学を教える姿や、一緒になって心肺蘇生法を行う姿が見られました。



鶴嶺高校の生徒は積極的に国際交流に参加する生徒が多く、昼休みも有志だったにもかかわらず、多くの生徒がランチを一緒にと視聴覚室に集まりました。学生たちも集まってくれて嬉しいと喜んでいました。放課後は剣道部による剣道体験を行いました。



国際交流委員より感想（一部）

・ It was more difficult than I had imagined to look at the international students and make a presentation while speaking English. Also, the last 15 minutes of the conversation was difficult because we had to communicate on our own, and we had to do it in English. However, I learned that if you have the desire to communicate and do your best, the nuances can be communicated, and it was a very good experience.

・慣れない英語を話しながら留学生の方を見て発表するのが想像以上に大変だった。また最後の 15 分くらいの会話は、自分たちだけで伝えないといけないし、英語で伝えないといけないのが大変だった。だけど伝えたいっていう想いがあって頑張れば、伝わることがニュアンスは伝わることが分かったし、非常にいい経験になった。

・ I was nervous because I was not confident in my pronunciation and I was not sure if I could communicate what I wanted to say. But I was glad that the exchange students enjoyed my presentation and gave nice reactions.

・発音に自信がなく、伝わるかどうか不安だったし緊張したけど、留学生の方々が楽しそうに聞いてくれたりリアクションをしてくれて嬉しかった。

I was a little nervous because there were not many reactions. I think I should have talked about something such as "In French, it's called..." I wish I had prepared a little better.

・反応があまりなくて少し不安になりました。フランス語では～というよ、のようなフランスに絡めた内容を話すべきだったと思っています。もう少し準備を頑張ればよかったです。

I was very happy when I was able to communicate by paraphrasing or explaining even if I didn't understand a word in English directly.

・直接英語で単語がわからなくても、言い換えたり説明することで伝わったときにすごく嬉しかったです

I thought it was good that people in the class talked to each other actively in English and got along well with the exchange students. I think it is a good opportunity to learn about things that are different from Japan.

・クラスの人が英語で積極的に話しかけ、仲良くなっているのがいいと思った。日本とは違うことが知れるため良い機会だと思う。

I was not able to talk much during the class, and I had to whisper so I couldn't communicate very well, but it was fun. The French people were very active in the class. They were speaking up when I asked them questions in English, and I was able to communicate with them.

・授業中はあまりおしゃべりができない環境で、小声で喋っていたからあまり伝わらなかったけど楽しかったです。フランス人が授業中とても活動的でした。英語で質問したら、彼らは積極的に話してくれて、ちゃんと意思疎通ができました。

B. 中国人留学生（大学院生）との交流

7月19日（金）に、国際医療福祉大学より中国からの留学生が高校見学として1名、鶴嶺高校にいらっしゃいました。1年生の1クラスに1日入って授業体験や部活動見学、また国際交流委員によるインタビューや帰国生徒の座談会を行いました。

朝の SHR で最初にご挨拶していただき、クラスに入って数学や国語、体育の授業を国際交流委員と一緒に受講しました。授業の中では、日本語を使いながら授業内容について話し合いながら交流をしました。



4時間目は、国際交流委員によるインタビューが日本語で行われました。中国からなぜ日本を選んだのかなど、生徒が考えた質問を行い答えていただきました。追加質問等も行い、生徒も違う文化の方と話す機会がないので貴重な時間となったと話していました。

また、帰国生との座談会を行い、今後の進路についてや日本語の習得、勉強についての悩み相談などについて、多文化相談 CO を交えながら中国語で行いました。中国から日本を選び、大学で研究を行う先輩の話を聞いて、自分の進路について深く考えるきっかけになったようでした。



後日、国際交流委員によってインタビューをまとめました。【次ページ参照】

どうして日本を選んだのか

- ・日本の文化が好きだから
- ・中国との距離の近さ
- ・アメリカやヨーロッパ諸国に比べて物価が安いから

日本と中国の学校の違い

- ・学校の雰囲気が中国の方が緊張している感じがする
- ・授業時間や夜に自習をするため住み込みで学校に通うところが多い
- ・スマホや化粧、恋愛が禁止なので日本の方が校則が自由

日本と中国の生活の違い

- ・公共交通機関の値段が高い
- ・中国ではタクシーが基本だが、日本では値段が高いため緊急の時にしか使わない
- ・中国のタクシーの料金は約1時間半の乗車で2,000円。

まとめ

日本と中国の学校の違いが大きかった。学歴社会なのは聞いたことがあるけど、高校で住み込みで学校に通うのは聞いたことがなかっただし、高校で住み込みということは寮が確保できるスペースもあるということだし、国土が大きいからこそできることなのかなと思った。

海外の人と交流する機会があまりないから、高校1年生のクラスに入って良い経験ができたよかったです。

Why did you choose Japan?

Because I like Japanese culture

・Proximity to China

Because the cost of living is lower than in the U.S. or European countries.

Differences between Japanese and Chinese schools

I feel the atmosphere at school is more tense in China.

Many students live in schools and study by themselves during class hours and at night.

Many students live in schools and go to school to study during class hours and at night.

Differences between life in Japan and China

Public transportation is expensive.

In China, cabs are the basic means of transportation, but in Japan they are used only for emergencies due to their high price.

Cab fare in China is 2,000 yen for a one-and-a-half hour ride.

Conclusion

The difference between Japanese and Chinese schools was significant. I had heard that they have an academic background society, but I had never heard of live-in schools in high schools, and I thought that live-in schools in high schools means that there is space to secure a dormitory and that this is possible because of the large land area.

I am glad that I had a good experience in the first year high school class because I did not have many opportunities to interact with people from other countries.

Question 日本に来て良いと思ったところはなんですか？

Answer ルールを守るところ、人との距離を守るところ、多くの人が優しいところ

Question 鶴高生の印象

Answer 明るくて話しかけやすい印象、よく話しかけてくれる

Question 日本に来て驚いたことはなんですか？

Answer 電車などでの人身事故が少ないと 食事の取り方の違い

例えば中国ではラーメンを食べるならラーメンだけを食べるが、日本ではラーメンだけじゃなく、チャーハンや餃子なども一緒に食べることがあることなど

感想

この一日、そして留学生のネンキンさんへの質問を通して様々な経験を得ることができました。その中で同じアジア圏の国の出身であってもその環境が異なることが多くあることに驚きました。また、質問のアンサーで鶴高生は明るく話しかけやすい印象を持たれていたことや日本に来てルールを守るところや、人との距離を守るといったところが良いと聞き鶴高生としても日本人としてもこのようなポジティブなところをもっと海外の多くの人に知ってもらいたいと思いました。

Question : What do you think is good about coming to Japan?

Answer The rules, the distance between people, and the kindness of many people.

Question : What is your impression of Tsurumine High School students?

Answer They are cheerful and easy to talk to, and they talk to me a lot.

Question : What surprised you when you came to Japan?

Answer The lack of accidents involving people on trains, etc. The difference in the way people eat.

For example, in China, if you eat ramen, you eat only ramen, but in Japan, you eat not only ramen but also fried rice, dumplings, etc.

Impressions

I gained a variety of experiences through this day and through my questions to the foreign student, Ms. Nenkin. I was surprised to learn that even if they are from the same Asian country, their environments are often different. In addition, in answering the questions, I got the impression that Tsurukoh students are cheerful and easy to talk to, and I heard that they are good at obeying rules and keeping their distance from others when they come to Japan.

C. World Sports Festival 2024

World Sports Festival 2024

The World Sports Festival, first held in March 2022, is now in its fourth year and has become one of the school's signature events. The World Sports Festival, planned and organized by the International Exchange Committee from the perspective of "what international understanding can be achieved in Japan with the Corona Disaster," continues to evolve each year.

生徒が主体的に
運営する
World Sports Festival



ルール動画を見て
この日初めてその競技に
トライする生徒も！

The mission of this year's World Sports Festival was to "make it a student-led festival management" and "make it an event to have fun and learn about the world. The chairperson and vice chairperson of the committee, as well as other committee members, held numerous discussions since September to achieve the mission, and the day of the festival arrived.

(1) The game "9マス鬼ごっこ" learning greetings from around the world.

This time, we planned a game in which participants learn greetings from around the world, such as "Thank you" and "Hello," while playing the game, taking advantage of the free time left by playing Kimball against other classes. In addition, there was time to solve common sense quiz in English, providing an opportunity to come into contact with the English they normally learn and with languages they are not normally exposed to.



(2) International Exchange Committee Members Managing Each Event

This year again, four events were held: Tuho, Molok, Boccia, and Ultimate, each of which was refereed and managed by the International Exchange Committee members. Thanks to the cooperation of the committee members and other students, the festival went off without major disruption.



D. The Speech Contest 2024

In January 2025, a speech contest was held in the gymnasium for each grade level. For the first time this year, the first-year students were divided into two categories, the “General” and “Global” categories.



TOPIC

2nd year “The person I respect”

1st year general category “My favorite”

1st year global category “My Another Sky”



The Champion of 2nd year

“The Singer who I respect”

Habana Shimauchi

Hello everyone. My name is Habana Shimauchi. The person I respect the most is the singer, Taylor Swift. She is a famous singer in the world and she has a lovely personality.

I would like to be a wonderful person like her, so I admire her for reasons. First, she has a big influence on the world. For example, she speaks out in support of LGBTQ+ rights, women's rights and against discrimination. She has made an impact not only as an artist but also as a social activist.



Second, she has a thoughtful personality. She cares about all kinds of people.

She has donated to various organizations, such as Children's Hospitals, Hurricane victims and LGBTQ Community. She even donated to Japan during The Great East Japan Earthquake. She always acts for other people.

In conclusion, Taylor Swift is the singer who has a huge influence and is very considerate. That's why I respect her and I would like to be a wonderful person like her. Thank you for listening.

The Champion of 1st year general category

“The charm of sea waves”

Akitaka Ogawa

Hello everyone. Today, I want to talk about something that I really love. It's the sound of ocean waves. When I go to the beach, I always feel so calm and relaxed by the sound of the waves.

The sound of ocean waves is like music that makes us feel calm and happy. When the waves hit the shore, they make a regular pattern, like a natural song. This sound connects us to the beauty of nature and makes us feel joy and wonder.



One great thing about ocean waves is that they help us relax. The gentle sound of waves can reduce stress and make us feel better. Many people like to be near the ocean or listen to recordings of waves to relax and escape from their busy lives.

Another thing I love about the ocean is the smell. The salty air makes me feel alive. It's like natural therapy. The ocean smell is special and reminds me of holidays.

Watching the waves is exciting. Big waves are powerful, and surfers show their skills. Small waves are gentle and peaceful. Each wave is different, making every beach visit unique.

Finally, the ocean waves bring peace and quiet. Watching the waves come and go can help us think and find calm inside. The big sea reminds us of our place in the world and connects us to something bigger. Whether it's during sunset or in the morning, the waves help us appreciate the moment.

The Champion of 1st year global category

“My Another Sky of Cuisine”

Orie Iiduka

Food is often confused as a simple necessity to maintain life, but in truth, it is so much more. A simple dish has a complex story infused with history and flavour; and has the ability to connect even the most distant of nations. The spices used within the dishes are a cuisine of their own. They have fueled trade routes, they have built empires and established empires. Take Saffron Walden for instance - a small town in England whose empire and economy were established due to the discovery of a field of saffron.



People shape the journey of food, from its origin to its purpose. For example, the national dish of England; a chicken tikka masala is a variation of an Indian butter chicken enhanced with a flavourful gravy sauce.

This goes to show how even the most polar-opposite cuisines can collide in history to produce a unique recipe.

Many traditions around food have been developed throughout the world. In Brazil, the first slice of a birthday cake is given to the person they love or appreciate most; reflecting how we, humans, communicate with one another through the power of food.

Have you ever been hungry? A place of hell, brewed using the ingredients of hunger and anger- where only the satisfaction of a full stomach can free you. But why do we get hangry? Being angry is an innate reaction to when humans are deprived of food - as we associate food with comfort and stability - leading us to feeling unstable and causing emotional responses, such as anger.

But as well as triggering such negative emotions, food awakens a symphony of delight. My favourite dish is a Spanish tapas called calamares Fritos. I am taken aback by its crispy batter which is accompanied by aioli.

For all these reasons, food has not become just a necessity nor a pleasure in life, but has become my another sky.

E. Traditional YUKATA-Dancing

Tsurumine High School's Traditional YUKATA-Dancing One of A Kind !

The entire student body consisting of over 1,100 students dances to Japanese old folk songs at the Sports Festival, dressed in kimono called YUKATA. The sight of such a large number of students dancing in a YUKATA is truly gorgeous!

1,100 もの生徒による「ゆかた踊り」

History

While it has become rare to see the traditional Japanese YUKATA-Dancing these days, Tsurumine High School has been nurturing this tradition for 50 years, since the school was founded in 1975.



開校以来 50 年の伝統

How to wear a YUKATA (Properly wearing a YUKATA requires some skills.)



Not only do students dance, but they are also REQUIRED to wear a YUKATA, a traditional Japanese summer dress. Volunteer parents come to the Sports Festival to help students put on their YUKATA. There is a YouTube video made by a parent about how to properly wear a YUKATA. Students are supposed to either buy or rent a YUKATA.

P T Aの支援で生徒全員がゆかた着用

体育の授業で踊りの指導

How to dance

YUKATA-Dancing is taught in P.E. classes. Students learn how to dance to four different folk songs. In this way, the preservation of Japanese culture is incorporated into Tsurumine's curriculum.



It can be reasonably assumed that there is no other school that conducts such an activity on a scale as large as ours, with the help of parents. It's one of a kind. The best in Japan; The best in the world!

唯一無二。世界一のゆかた踊り！



F. International Lunch Time

International Lunch Time!

Tsurumine holds International Lunch Time twice a month.

月2回の交流会。

Students who are from abroad,
students who have lived abroad,
students who have visited abroad

and students who have never been abroad come together, eat lunch, and talk.

This is to learn about foreign cultures,
speak foreign languages,
or just have a good time!

留学生や帰国生徒と
おしゃべり :D



It was fun. I like this International Lunch Time! I noticed differences between the countries we are from. I want to join this again!

I talked to people with similar experiences and backgrounds. I learned about Japanese culture, and it was fun.

**I sat next to people who are similar to me.
It felt like I was back in America. It was really fun.**

I think it's a good thing for us. We can talk about things in English or Japanese, and we learned about festivals in other countries.

I feel like my intelligence has improved!
I am happy to listen to cool English.

G. Ride the Wave; Win the Gold!

Ride the Wave; Win the Gold!

インド洋 モルジヴで金メダル

サーフィンの大会でアジアNo.1！になった鶴高生が書いてくれました。



モルジヴで金メダル。
各国のサーファーと交流。

I went to the Maldives during my summer vacation and joined the Asian Surfing Competition U18 as part of Team Japan. I won a gold medal in this competition! I also had many chances to enjoy international exchanges during the competition. I'm going to talk about two stories about these experiences.

波の情報やお互いの国のサーフィン事情について
韓国の選手と交流。



First, I'm going to talk about my conversation with a Korean surfer. His name is Yundohoon. He is 17 years old. We talked about how waves are different in Japan and in Korea. He said, "Korea has only one beach, and our only surfing season is in winter. It's too cold to surf." And we talked about wave pools. Korea and Japan have wave pools. He said "Korean wave pools are very big. We can practice turns, airs, and tubes there. But the winter season is very cold..." Through this conversation, I learned about the surfing environment in Korea.

Second, I'm going to talk about a local surfer named Adam. He was our caddy and taught me where the best positions were. He also showed me where I could find delicious local food, and more. In my last day in the Maldives, he gave me an ethnic towel. It made me very happy.

I was touched a lot by people's kindness. I also gained a lot of self-confidence through this tournament. I want to connect this experience to the future.



現地のキャディからは
いい波の情報を。

H. Feel the Heat; Hit the Beach!

Feel the Heat; Hit the Beach!

いざ、海岸へ！

ビーチバレーをプレーする鶴高生が書いてくれました。



Our activities take place at Kugenuma and Hiratsuka Beaches. We usually practice in pairs. The practice we find the hardest is "block exercises." Sometimes we jump to block the spike, but other times we don't. When we don't jump, we move quickly and try to get the ball. The most fun practice is a practice match. This is because we can use and try the skills we've learned in practical ways.

鵠沼と平塚の海岸で練習。ブロック練習がきつい！

The other day, we took part in the Kanto Taikai. There were many pairs stronger than us. We learned a lot from them, not only in terms of skills but also in terms of how to encourage each other while playing.

関東大会では強い選手と交流。

Unlike indoor volleyball, there are only two players on the court in beach volleyball. That's why beach volleyball players need to be creative, come up with various strategies and pass the ball according to the strategy.



ビーチバレーには創造性に富む戦術が必要。
そして、それを実行するボールさばき。

What's great about playing beach volleyball is that we meet amazing players through the sport, like ISHII Miki. We respect her because, although she is not very tall, she can jump high and hit powerful spikes, and also has excellent defense and blocking skills to compete with world-class players. She makes us think, "Height doesn't matter!"

パリ五輪で活躍した石井選手と。



I. Dansk Kultur: HYGGE

Dansk Kultur: HYGGE

デンマークの文化

デンマークの留学から帰った鶴高生の手記です。

Hygge
デンマークの文化
を代表することば





Hygge
居心地のよい
～共に過ごす時
間の大切さ～

I would like to talk about one of my favorite Danish words and culture. It is called "Hygge." "Hygge" means "cozy" in English. It also means the importance of sharing time with others.

In Denmark, many cultural events and parties are held throughout the year. For example, they have Easter events and school parties as well as birthday parties, and Christmas events. During these times, they usually serve many delicious cultural foods and drinks and others; however, they spend more time talking to each other than eating and drinking. Sometimes they sat around the table and talked for hours.



余暇を大切にするデンマークの人たち。
何時間もおしゃべりすることも。

Why do they do this? I asked my host family, and they said, "Life is not going to last forever, so cherish the present!" I was so impressed with these words, and I understood Danish "Hygge Culture" more deeply. Moreover, every time when I left for a party or to hang out with friends, my host family said, "Hygge dig." to me. It means "Have Hygge with your friends." It is also used to wish other people to make their time valuable.

I had never thought about life as Danish people do. This means that I did not have opportunities to think about it in Japan, so this experience was very beneficial for my life and changed me. I would love to keep valuing this "Hygge Culture" in my life in Japan, and share it with a lot of people. ☺

どこに行く時も合言葉は "Have Hygge!"

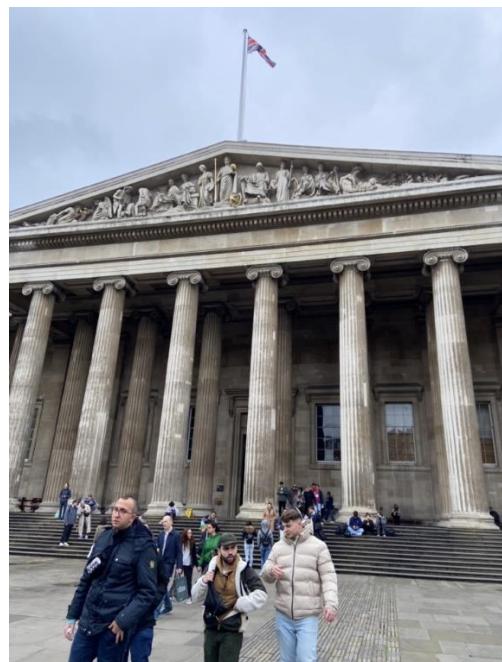
J. イギリスの学校との交流

第13回イギリス訪問 クリーヴ・スクール 2024年3月16日～3月25日

月日（曜）	現地時間・交通機関	スケジュール
令和6年 3月16日（土）	22:30 羽田空港駅集合 25:00 羽田発 (JL041便)	集合場所：第3ターミナル 搭乗・出国審査・出発 (機中泊)
3月17日（日）	6:25 ヒースロー空港着 8:00 専用バスで移動	入国手続き後、市内観光（バッキンガム宮殿、大英博物館等）の後、ホテルにて夕食。 生徒・引率教員ホテル泊
3月18日（月）	ロンドン発 専用バスで移動 コッツウォルズ着	ウィンザー城見学 クリーヴスクールにてホストファミリーと対面 生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
3月19日（火）	コッツウォルズ クリーヴスクール	午前：授業参加 午後：Bishop Cleeve Village Centre訪問 生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
3月20日（水）	コッツウォルズ クリーヴスクール	午前：授業参加 午後：ストラトフォード訪問 シェイクスピア生家 生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
3月21日（木）	コッツウォルズ クリーヴスクール	午前：授業参加 午後：ボートン訪問 バイブリー訪問 生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
3月22日（金）	コッツウォルズ クリーヴスクール	午前：授業参加 午後：日本文化紹介 フェアウエルパーティー 生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
3月23日（土）	コッツウォルズ	ホストファミリーとの休日 生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
3月24日（日）	12:00 コッツウォルズ発 15:00 ヒースロー空港着 18:30 ヒースロー空港着 (JL041便)	交流校に集合し、ホストファミリーと別れを告げ、ヒースロー空港へ。 機内泊
3月25日（月）	17:20 羽田空港着	空路、帰国の途へ 入国手続き後、解散。

3月16日（土）～25日（月）の10日間の海外交流校訪問を、イギリス・コッツウォルドにあるクリーヴスクールにて行いました。生徒18名、引率教員2名で訪問しました。

3月17日（日曜日）：羽田空港を出発し、約16時間後にヒースロー空港に到着しました。専用バスで市内観光（バッキンガム宮殿、ウエストミンスター寺院、大英博物館、ビッグベン等）をした後、ロンドン市内のホテルに泊まりました。



3月18日（月）：ウィンザー城で英国の歴史と伝統に浸りました。



その後、クリーヴスクールに移動し、ホストファミリーとの対面式が行われました。



3月19日（火）：授業参加の風景です。食堂には伝統のフィッシュアンドチップス。



3月22日（金）：クリーヴスクール最終日。お別れパーティーが行われました。現地の生徒に日本文化の紹介や、折り紙や書道を体験してもらいました。最後はみんなで茅ヶ崎音頭を踊りました。



3月24日（日）：週末をホストファミリーと過ごし、お別れの朝を迎えました。



3月25日（月）：全員元気で羽田空港に帰り着くことができました。英語力のみならず、現地のみなさんとの交流でグローバルな感覚を養うことができました。充実した時間を過ごした鶴高生の表情は輝いていました。

【英国交流訪問生徒の声】

Through studying in England this time, I became even more interested in British English than before. I have learned American English basically from an early age, so I rarely have a chance to come into contact with British English except watching Harry Potter, and this was my first time to come into contact with the real thing, but in nine days I was very attracted to the high pronunciation, elegance and sophistication of British English. I was impressed by how different words and phrases were used, pronounced and accented, and how different countries and speakers of the same English language were, and I could feel the fun and depth of language study even more because I was in England. During my stay, I felt frustrated and frustrated that I couldn't express myself the way I wanted, and I regretted being negative for fear of making mistakes, but everything was a valuable experience, which motivated me to study English in the future. I also became interested in British culture and traditions through this experience.



There were many differences in food culture, manners, and etiquettes from Japan, and it was very interesting. The British people seem to value their country's culture and traditions very much, and speaking of England, I have a strong impression of tea, but in fact, I always drink tea two or three times a day at my homestay destination. Basically, many of the meals were served with cutlery, and the lunch boxes I took to school were very different from those in Japan. In addition, unlike in Japan, the streets, the building of houses, and the appearance of houses, I felt a long history of many buildings. It was a short study abroad for nine days, but it was a valuable experience that made me want to go to England as well as other countries around the world. From now on, I will make use of what I have learned and work harder to study languages and expand my world.

K. ドイツの学校との交流

第9回ドイツ交流校訪問（訪問校 ザルツマンシューレ） 2024年8月16日～8月26日

□日程 令和6年8月16日（金）～8月26日（月）9泊11日

月日（曜）	現地時間・交通機関	スケジュール
令和6年 8月16日（金）	7:20 羽田空港集合 9:40 羽田発（LH715便） 17:00 ミュンヘン着 19:30 専用バスでホテルへ 20:30 ホテル着	集合場所：第3ターミナル 搭乗・出国審査・出発。 入国手続き後、空港内レストランにて夕食。 夕食後、ミュンヘン市内ホテルへ。 (生徒・引率教員ホテル泊)
8月17日（土）	7:15 ホテル発 専用バスでシュヴァンガウへ 9:15 シュヴァンガウ着 13:30 専用バスでミュンヘン市内へ 17:00 ミュンヘン市内着 19:30 専用バスでホテルへ 20:00 ホテル着	ノイシュバンシュタイン城見学。 市内観光（マリエン広場周辺）の後、市内レストランにて夕食。 (生徒・引率教員ホテル泊)
8月18日（日）	9:00 ホテル発 専用バスで空港へ 10:00 ミュンヘン空港着 12:00 ミュンヘン空港発（LH105便） 13:00 フランクフルト空港着 14:00 専用バスでヴァルタシャウゼンへ 17:00 ヴァルタシャウゼン着	ホテルにて朝食後、ミュンヘン空港へ。 搭乗前に各自で昼食を購入し、機内で食事をとる。 ザルツマンシューレにてホストファミリーと対面。 (生徒ホームステイ・一部生徒 / 引率教員寮泊)
8月19日（月）	ヴァルタシャウゼン ザルツマンシューレ	交流校訪問 (生徒ホームステイ・一部生徒 / 引率教員寮泊)
8月20日（火）	ヴァルタシャウゼン ザルツマンシューレ	交流校訪問 (生徒ホームステイ・一部生徒 / 引率教員寮泊)
8月21日（水）	ヴァルタシャウゼン ザルツマンシューレ	交流校訪問 (生徒ホームステイ・一部生徒 / 引率教員寮泊)
8月22日（木）	ヴァルタシャウゼン ザルツマンシューレ	交流校訪問 (生徒ホームステイ・一部生徒 / 引率教員寮泊)
8月23日（金）	ヴァルタシャウゼン ザルツマンシューレ	ホストファミリーとの休日 (生徒ホームステイ・引率教員ペンション泊)
8月24日（土）	15:00 ザルツマンシューレ発 専用バスでホテルへ 18:00 ホテル着	交流校に集合し、ホストファミリーと別れを告げ、フランクフルト市内ホテルへ。 ホテルにて夕食。 (生徒・引率教員ホテル泊)
8月25日（日）	10:00 ホテル発専用バスで空港へ 11:00 フランクフルト空港着 14:05 フランクフルト空港発（LH716便）	ホテルにて朝食後、フランクフルト空港へ。 空港内にて各自昼食購入。 (生徒・引率教員機中泊)
8月26日（月）	10:30 羽田空港着	入国手続き後、解散。

8月16日（金）～26日（月）の11日間の海外交流校訪問を、ドイツ・ヴァルタシャウゼンにあるザルツマンシューレにて行いました。生徒12名、引率教員2名で訪問しました。ドイツへの訪問は9回目、チューリンゲン州のザルツマンシューレへの訪問は3回目となります。

8月16日（金）

LH715便は予定通りに羽田空港を出発し、定刻通りにミュンヘン空港に着いた。入国審査も滞りなく進んだ。生徒の健康状態も良好であった。

8月17日（土）

午前はミュンヘン南部にあるノイシュバンシュタイン城を見学した。ガイドさんの話に耳を傾け、熱心に見学を行っていた。

午後はミュンヘン市中心部に戻り、マリエン広場や市庁舎、ニュンヘンベルグ城の見学をした。マリエン広場は大勢の人でぎわっており、ミュンヘン市の人々の生活の様子を垣間見ることができた。また、特徴的な建造物が並ぶ街並みに生徒は目を見張っていた。

8月18日（日）

ミュンヘンからヴァルタシャウゼンへの移動中は悪天候だったが、予定通り、ザルツマンシューレに到着することができた。生徒はホストファミリーと対面し、これから始まるホームステイを楽しみにしているようだった。少し疲れが出てきた様子も見られたが、明日から始まる交流校の授業参加に向けて意気込んでいた。

8月19日（月）～8月22日（木）

ザルツマンシューレでの生活。現地の生徒とともに授業を受け、積極的に交流していた。最終日（22日）に行われた「日本のタベ」では、生徒が練習してきたプレゼンやパフォーマンスを披露し、大いに盛り上がった。

8月23日（金）

生徒はホストファミリーとの一日を過ごした。

8月24日（土）

ザルツマンシューレを出発し、空港のあるフランクフルトへ。ホストファミリーと生徒が互いに別れを惜しんでいた。

8月25日（日）～8月26日（月）

LH716便は予定通りにフランクフルト空港を出発し、予定時刻から40分遅れて羽田空港に着いた。生徒の健康状態も良好であった。

□反省事項及び今後の課題

日程全体を通して、有意義な交流校訪問と国際交流ができた。ザルツマンシューレのシュミット校長先生、日本人教員の税田先生などの先生方が手厚いサポートをもって生徒を受け入れてくださった。また、ホストファミリーの生徒・保護者の方々も鶴嶺の生徒との交流に積極的な姿勢を示していただけた。今回ホストをしてくれたザルツマンシューレの生徒の半数（6名）は、昨年度に鶴嶺高校を訪れ、すでに生徒同士の面識があったため、交流も非常に積極的に行われた。

8月16日（金曜日）：羽田空港を出発し、約14時間後にミュンヘン空港に到着しました。空港のレストランで夕食を取り、その後、専用バスでミュンヘン市内のホテルで宿泊しました。



8月17日（土）：ノイシュバンシュタイン城を訪問し、建設された19世紀のドイツの歴史や文化を学びました。専用バスでミュンヘン市中心部へ行き、市内観光（ニュンヘンブルグ城、ミュンヘン市庁舎、国立劇場等）をした後、ミュンヘン市内のホテルに宿泊しました。



8月18日（日）：ミュンヘン空港からフランクフルト空港へ移動。フランクフルト空港到着後、専用バスでザルツマンシューレへ移動。ホストファミリーとの対面式を行いました。



8月19日（月）：ザルツマンシューレの授業に参加しました。授業への参加風景で



8月20日(火) : エアフルトを訪れました。特徴的な建物が並ぶ街中を散策しながら、伝統的な街の文化や人々生活の様子を感じることができました。ザルツマンシューレの生徒とも交流を深めることができました。



8月21日(水) : 鶴嶺生のみでゴータを訪問し、フリーデンシュタイン城と公爵家博物館を見学しました。事前に予習した建築様式や博物館の展示物を注意深く観察し、充実した見学を行うことができました。



8月22日（木）：午前中は授業を受け、午後はグリルパーティーと日本についてのプレゼンテーションを行いました。事前に練習を重ねたプレゼンテーションは大反響でした。



8月23日（金）：ホストファミリーと1日を過ごしました。

8月24日（土）：ホストファミリーと別れを告げました。



8月25日（日）：フランクフルト空港を出発。

8月26日（月）：羽田空港に到着。

【ドイツ交流校訪問生徒の声】

The City of London was very beautiful filled with many historical buildings. There were many sights that you would never see in Japan, such as police on horseback and soldiers walking around. I met wonderful friends and a host family in the U.K. Everyone welcomed me kindly. I met everyone and had a great time. This memory is my treasure!! I LUV UUUU (1年女子)

This was the first time that I went to a foreign country by myself, with my passport, and has been puzzled a little. However, a lot of friends and my host family helped me, and I enjoyed it. The activity in the U.K. was significant. The time at the British Museum was very short, but the visit was interesting and I saw the Rosetta Stone and the mummy. That was too bad that I was not able to see the crystal skull. I want to learn a lot of things if there is an opportunity to be able to go there again. (1年男子)

Japanese people take off their shoes and use chopsticks for meals and forks for salads and other dishes. However, there is no place to put your shoes at the entrance of a British house, like in Japan, and when eating, people usually use a fork and knife. I also learned that, unlike Japan, the staple food is not rice, but cornflakes and bread in the morning and baked or mashed potatoes in the evening. In this way, there are many differences between the UK and Japan, and I was able to learn many things. (1年男子)

Everyone was highly motivated in class. During the class, I saw a lot of people raising their hands. Also, everyone was friendly and talked to me a lot. Most of the schools in Japan are Japanese, but the school we went to had a lot of people of different races. In fact, my buddy was not British, but Spanish. In English lessons, the teacher was having tea. I was able to have an experience that I couldn't do in Japan, such as eating sweets during class.

I also learned that water is valuable in England. It seems that they store water in the tank and use it. Therefore, I was told to finish the bath in about 10 minutes because I couldn't use a lot of water. In Japan, I had almost never worried about it, so it was hard to get used to it. (1年女子)

L. ブリティッシュヒルズでの研修

第1回 ブリティッシュヒルズ訪問 2025年1月25日～1月27日

生徒18名が福島県にあるブリティッシュヒルズに訪問しました。生徒たちは現地で、本校生徒や教員とも英語での会話をすることを約束し、3日間のプログラムを楽しみました。日本国内であるにもかかわらず、帰ってきたときに英語で思い出話をしようとするなど、「間違えてもいいから、英語を話そうとする積極性」を身につけて帰ってきた生徒が印象的です。



生徒の感想

- ・とても楽しかったし来年もできたら参加したいと思った。
- ・今まで英語で話すことに少し抵抗があったけど今は沢山話して英語力を伸ばしたいと思えた。
- ・様々なアクティビティがあって楽しかったです。
- ・どの授業も楽しかった。
- ・いきなり海外へ留学することに抵抗がある人にオススメしたい。
- 英語を話す機会がほとんどでも安心して学べる環境だと思った。
- ・海外に興味があるけど、金銭的な面と、英語力、どんな感じか分からぬからとりあえず、短い期間だし、やってみようと思ったから。
- ・最初はオールイングリッシュで自分の英語が伝わるかや聞き取れるかが心配だったけれど、いざ行ってみると先生方がみんな面白く楽しかった。イギリスの雰囲気をすごく感じられた。普段日本語で会話する友達とも英語で話せてよりコミュニケーションをうまくできた。
- ・英語の勉強だけでなく実際に海外留学した時のマナーも学んだ。学校の英語の授業よりもコミュニケーションを取る機会が多くて楽しかった。
- ・今回の研修で英語で話したりする事へのハードルが少し下がったような気がした。
- ・英語を聞くこと以外苦手で不安しかなかったけど友達に助けてもらったり先生に教えてもらったりで英語をもっと学びたいなって思った。
- 英語を学ぶこと以外にも楽しいことがたくさんあって充実した2泊3日だった！
- ・短かったけどたくさんのレッスンがあったり、自由時間で英語でゲームしたり、お土産がったり、お菓子パーティーしたりと充実していてすごく楽しかった！
- ・非日常感もあるし英語も学べてとても楽しかった。
- ・思っていた何倍も面白くて勉強になった！
- 来年も行けるなら行きたいって思えるぐらい楽しかった！
- ・英語以外にもテーブルマナーやイギリスの文化が学べて良かった。外国人と英会話をする。
- いい機会にもなった。
- ・先生たちが優しくて積極的に英語を話せるようになって行ってよかったです。
- ・イギリスの文化を体験しながらネイティブの外国人と英語で話すことができて、もっと英語力を身につけたいと思った。友達ともイギリスの空間にいることによって英語を使いながらアフタヌーンティー等を楽しむことができた。数日過ごしているうちに英語に耳が慣れてきて、普段から英語を聞くようにしたいと思った。

VI 令和6年度 グローバル教育に関するアンケート結果

質問項目	
あ	外国語に対する興味・関心はありますか？
い	今後、外国語によるコミュニケーション力を伸ばしていきたいですか？
う	鶴嶺高校の国際交流の行事(海外交流校訪問、留学生来校など)について、興味・関心はありますか？
え	日本の文化、歴史、社会等について、興味・関心はありますか？
お	日本の文化、歴史、社会等について、何か1つでも日本語で説明できますか？
か	日本の文化、歴史、社会等について、何か1つでも外国語で説明できますか？
き	外国の文化、歴史、社会等について、興味・関心はありますか？
く	学校以外(国内)で外国人と交流をしたことがありますか？
け	日本に在住する外国人と交流したり、国際交流活動をしたいと思いますか？

49期 1年生

1年次(令和6年度)				4. かなり当てはまる			
	4	3	2	1		3. ほぼ当てはまる	2. あまり当てはまらない
1	24%	44%	25%	7%			
2	42%	40%	14%	4%			
3	23%	41%	26%	10%			
4	23%	44%	24%	8%			
5	21%	49%	25%	5%			
6	8%	31%	42%	19%			
7	20%	45%	25%	10%			
8	24%	28%	28%	20%			
9	21%	44%	24%	11%			

48期 2年生

1年次(令和5年度)				2年次(令和6年度)				
	4	3	2	1	4	3	2	1
1	31%	42%	21%	6%	27%	40%	24%	9%
2	47%	40%	10%	3%	38%	44%	13%	6%
3	26%	43%	24%	7%	23%	37%	28%	13%
4	25%	39%	31%	6%	24%	38%	29%	9%
5	25%	47%	22%	6%	24%	42%	27%	8%
6	8%	16%	44%	32%	9%	32%	42%	17%
7	28%	43%	21%	8%	28%	35%	27%	10%
8	24%	29%	25%	22%	25%	24%	31%	19%
9	26%	39%	25%	9%	26%	35%	29%	9%

47期 3年生

2年次(令和5年度)				3年次(令和6年度)				
	4	3	2	1	4	3	2	1
1	38%	46%	13%	3%	31%	46%	20%	3%
2	51%	42%	5%	2%	48%	41%	10%	2%
3	27%	45%	23%	5%	22%	40%	30%	8%
4	27%	47%	20%	7%	27%	44%	24%	4%
5	26%	46%	21%	6%	21%	53%	19%	7%
6	10%	19%	41%	29%	9%	24%	28%	39%
7	29%	47%	19%	6%	29%	45%	6%	20%
8	21%	30%	28%	21%	21%	30%	26%	23%
9	44%	28%	20%	7%	20%	48%	24%	8%

[アンケート分析]

・ 50期について

質問 4 「日本の文化、歴史、社会等について興味・関心はありますか？」について、「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が 67%あり、49期生の 1年次の合計 64%より増加している。5 「日本の文化、歴史、社会等について、何か一つでも日本語で説明できますか？」について「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が 70%であり、49期生の 1年次の合計 72%から少々減少しているが、継続して高い興味・関心を保っている。

・ 49期について

質問 6 「日本の文化、歴史、社会等について、何か 1つでも外国語を使って 2,3 文程度で説明できますか？」について「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が 1年次合計 26%から 2年次合計 41%と大きく増加している。質問 8 「学校以外 (国内) で外国人と交流をしたことがありますか？」について「4. かなり当てはまる」と答えた生徒が 1年次合計 24%から 2年次 25%と増加している。

・ 48期について

質問 5 「日本の文化、歴史、社会等について、何か一つでも日本語で説明できますか？」の「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計は 2年次の合計 72%から 3年次の合計 74%と増加している。

質問 6 「日本の文化、歴史、社会等について、何か 1つでも外国語を使って 2,3 文程度で説明できますか？」について「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が 2年次合計 29%から 2年次合計 33%と増加している。質問 7 「諸外国の文化、歴史、社会等について興味・関心はありますか？」の「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が 2年次合計 76%から 3年次合計 74%と少々減少しているが、継続して興味・関心を保っている。質問 8 「学校以外 (国内) で外国人と交流をしたことがありますか？」の「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が 2年次合計 51%から 3年次合計 51%と変わらず、継続して興味・関心を保っている。

[今後の課題]

- ・ 各学年において、質問 6 の数値が伸びている。各学年の英語の授業で主体的に生徒に英語を使用させたこと、また、パフォーマンステストを定期的に実施し、英語で発信する機会が増えたのが理由の 1つと考えられる。今後も継続していくことで、この数値を維持、向上することを期待したい。
- ・ 各学年において、約 2~3 割程度、国際交流活動に対して興味・関心を持たない生徒が存在する。今後は、異文化交流事業に関する行事について生徒への周知を徹底し、入学初年度から無理なく、より多くの生徒が国際交流活動に参加できるよう計画的な指導をしていく必要がある。そして、今後より多くの生徒が、外国語学習、および国際交流に対して強い興味関心を抱き、最終的には、そこで得た知見を活かし、自己の成長につなげさせたい。